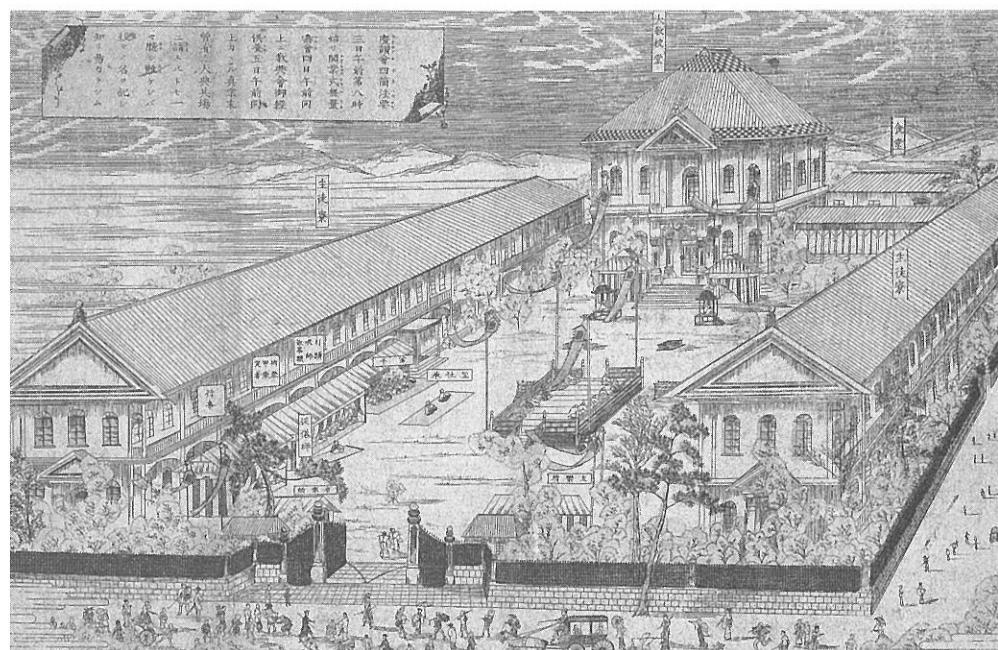


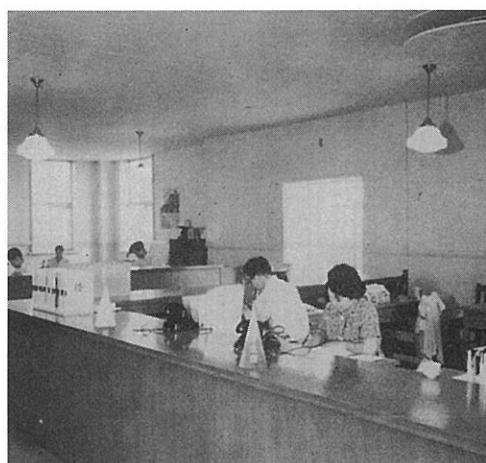
本願寺大教校慶讃会四箇法要之図。学校制度の導入にともなって1879(明治12)年5月、現在の大宮学舎に大教校の校舎が落成した。関西有数の擬洋風建築として注目された

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



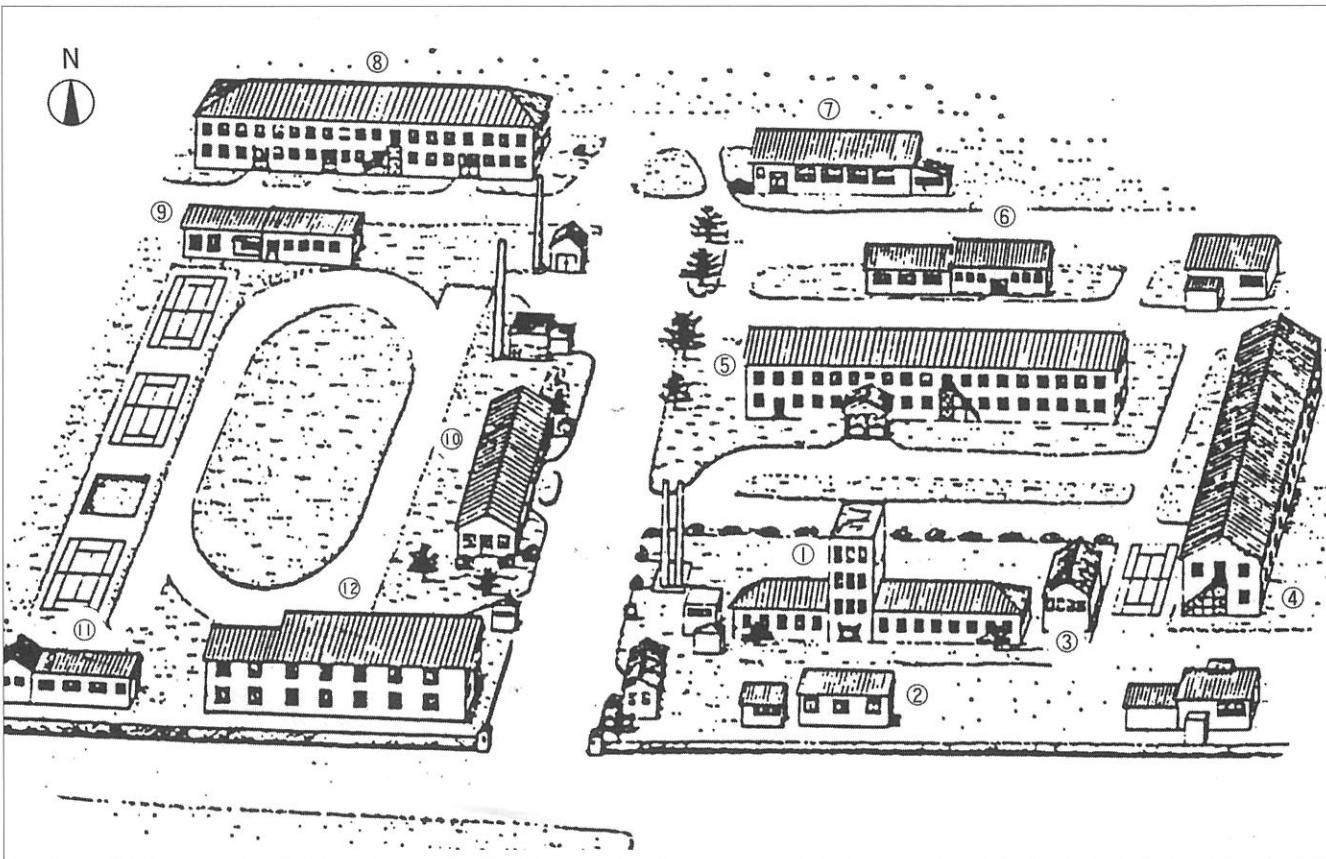
1962(昭和37)年の大学入学案内。学部は、文学部、経済学部、短期大学部の3学部のみであり、まだ法学部はない

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009  
(平成21年)



深草学舎開設当時の事務室(旧1号館)。1960(昭和35)年4月、それまで米軍が駐留していた深草の用地を取得し、翌年に経済学部が開設された。1963(昭和38)年には経済学部内に経営学科が増設され、同学科を母体として1966(昭和41)年に経営学部が開設された。法学部の設置はそれからさらに2年後の1968(昭和43)年のことになる。

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年

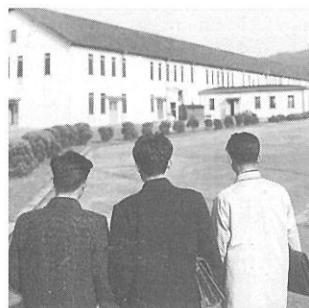


I  
創設当時の深草学舎鳥瞰図。米軍が使用していた建物が多く残され、教室や事務室などとして用いられていた。①1号館(本部、図書館など)、②2号館(大教室)、③3号館(医務室)、④4号館(東寮)、⑤5号館(研究室、食堂など)、⑥6号館(道場)、⑦7号館(講堂)、⑧8号館(教室)、⑨9号館(自然科学教室など)、⑩10号館(会議室)、⑪11号館(体育関係室)、⑫12号館(南寮)。④が現在の紫英館、⑦が和顔館、⑧が2号館の位置にほぼ相当する

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年

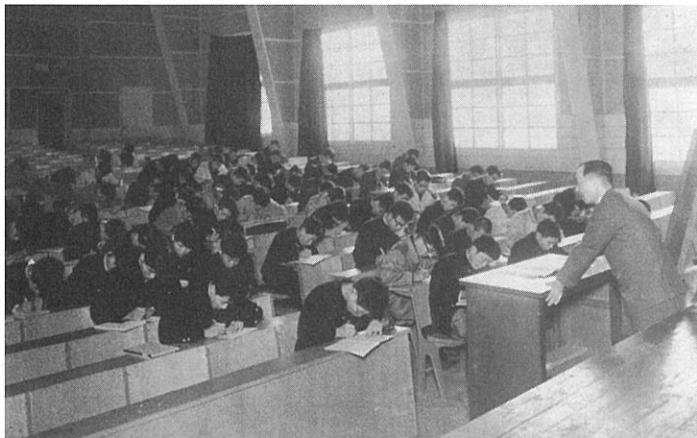


右が1号館(本部、図書館など)、中央やや左が3号館(医務室)、左端が4号館(東寮) 写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



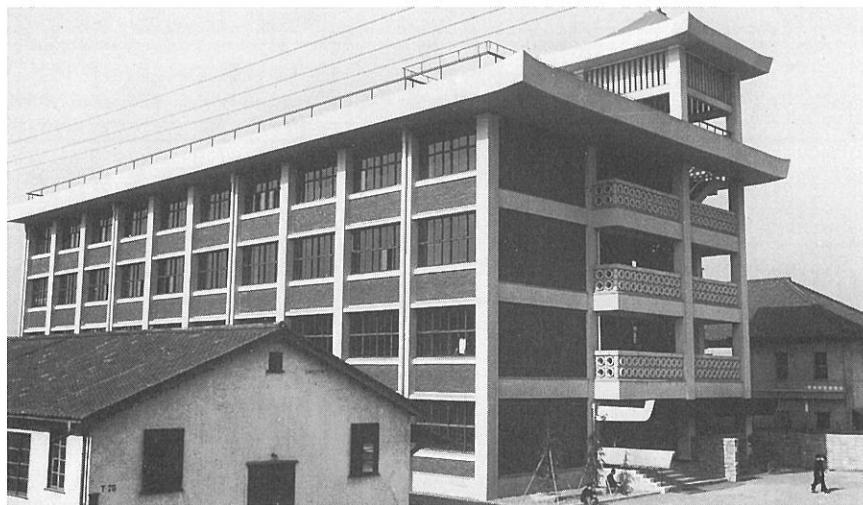
〈左〉研究室や食堂があつた5号館(1960年代)  
〈右〉5号館1階にあつた食堂(1960年代)

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



7号館(講堂)での講義風景。この施設はキャンパスの東端に移設され、その跡地には13号館(のちの1号館)が建設された。現在は和顔館が建つ

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1963(昭和38)年4月に竣工したばかりの13号館(のちの1号館)。1965(昭和40)年に西側が増築され、その後の1号館の形が出来上がった。現在は取り壊されて和顔館が建っている

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年

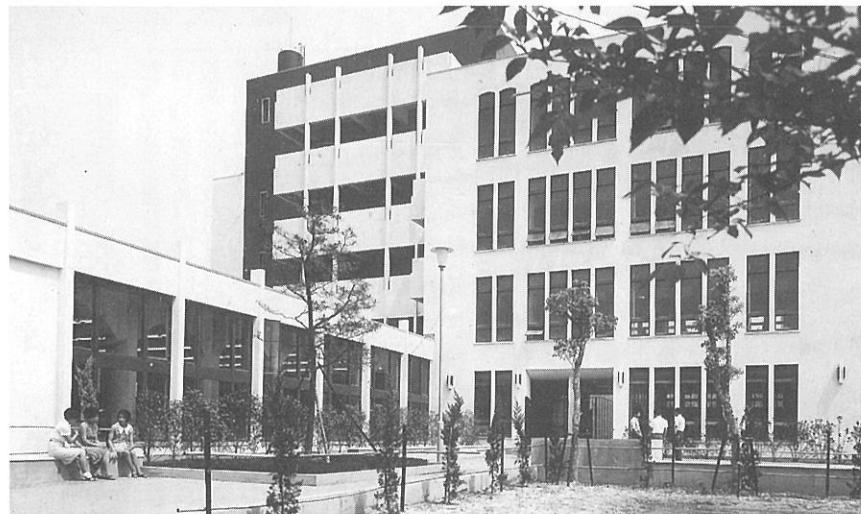


1968(昭和43)年9月、8号館が焼失した。当時の『朝日新聞』(9月22日付朝刊)は、「二十一日午後七時十五分ごろ、京都市伏見区深草塚本町、龍谷大学(星野元豊学長)の木造二階建深草学舎八号館付近から出火、同八時すぎ、約千三百平方メートルの全校舎を全焼した」と報じている



1964(昭和39)年に増築され、自然科学教室や大教室などの施設を備えるようになった9号館。1982(昭和57)年に取り壊されて、その跡地に2号館が建設された

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1967(昭和42)年4月に竣工した14号館

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



北村貞夫経営学部教授。法学部創設を学内で初めて提案したのは、当時、経営学部選出の評議員であった北村である。北村は、1966(昭和41)年6月の評議会の席上、「高校卒業生は昭和四十三年がピークであるから、学部増設などの将来計画を樹立実行するには、今がそのチャンスと考える。とくに四十三年以降の学生数漸減にそなえるためには、今大学を総合大学化して大学の格を高めておくことが肝要である。私としては法学部と仏教学部の増設が適当と考える」(龍谷大学三百五十年史編集委員会編『龍谷大学三百五十年史・通史編下巻』「第五章 法学部」)と発言した



法学部創設に尽力した星野元豊学長。法学部創設10周年を記念した冊子のなかで、星野学長は、「法学部が創設10周年を迎えるという。まことに感慨無量なるを禁じえない。すでに大学を退いた私だが、それでも龍大の法学部のうわさが耳にはいるたびに、私は人知れず胸を張った。何故かといって、法学部こそは私が学長時代に、いわば身をはって産んだ愛し子だからである」(龍谷大学法学部編『龍谷大学法学部10年のあゆみ』1977(昭和52)年)と述べている

## 新法学部の発足にさいして

法学部長 浅井清信



法学で根本的に動搖はじめていた。かつての東京帝国大学法学部出身の秀才たちが戰後の日本の政治を毒している現実の前に法律学者は自らのうちににおいて矛盾を自覚し、新しい法律学への変転を志向

民主国家は法國である。法治は法が支配する国である。法律はいわばかような「法」の研究目的とする。したがつてからつては法律学のタレントは社会の各分野において君臨し、政界の中堅を占めてきた。東京帝国大学の法学部は出世コースのトップにあったものである。

しかし二十世紀の半すぎた今日においては民主主義は形骸化し、法治国は概念化され、法の支配は支配されるもの、被抑圧者の側からの深刻な反対を迫られる法

律学で根本的に動搖はじめていた。

法学で根本的に動搖はじめていた。

法学で根本的に動搖はじめていた。このことは先述べたような旧態依然たる神から一歩前進し、堅

的真実をふまえて国民の自由と幸福に資する法律学を研究し、教育

場であったのである。私たちの法

学は決してそしたものであつてはならない。かくちな法律學では自らのうちににおいて矛盾を自覺し、新しい法律学への変転を志向

せすにはおれない。

こうしたとき龍谷大学に

新しく法学部を開設したのであるから、旧態依然たる古い神の中に

法学部を新設するというのでは意

めである。

法学部の本命は法律家の養成で

あることほんとうでない。だか

ら一方においては法律解釈学の

修得訓練を徹底的に行ない、やが

ては私たちの法律學からも裁判官、

弁護士を送り出し、國家公務員、

地方公務員を多数に輩出するよう

にせねばならない思つてゐる。

法学部新設に當つて「護憲法



法学部開設にあたってカリキュラムを検討するスタッフ。1968(昭和43)年4月に法学部が開設されたことで、龍谷大学は、文学部と経済・経営両学部を含む「文科系総合大学」としての道を歩み始めたようになった。この年の大学入試は受験者が1万人を初めて突破した

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1968(昭和43)年4月15日付『龍谷大学新聞』に掲載された、「新法学部の発足にさいして」と題する浅井清信初代法学部長による寄稿文。「ただひたすら法律の条文の中に立てこもって法の解釈に徹しようとする法律学」を批判し、新設された法学部において「歴史的真実をふまえて国民の自由と幸福に資する法律学」を研究することの重要性を語っている

法学部が創設された1968(昭和43)年頃の深草学舎。米軍キャンプ時代の施設がまだ広く使用されていた  
写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1969(昭和44)年当時の深草学舎航空写真。中央右の13号館(のちの1号館)と、左上の14・15号館以外は米軍キャンプ時代の建物である

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年

12



入学式。法学部最初の入学式は、1968(昭和43)年4月、旧1号館4階にあった講堂で開催された。その後、クラスごとに分かれてクラス担当者との懇談会が開かれた



フレッシュマンキャンプ(のちにフレッシュヤーズキャンプと呼ばれるようになる)



法学部が開設された1968(昭和43)年、龍谷大学硬式野球部は関西六大学春季リーグで念願の初優勝を果たした

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



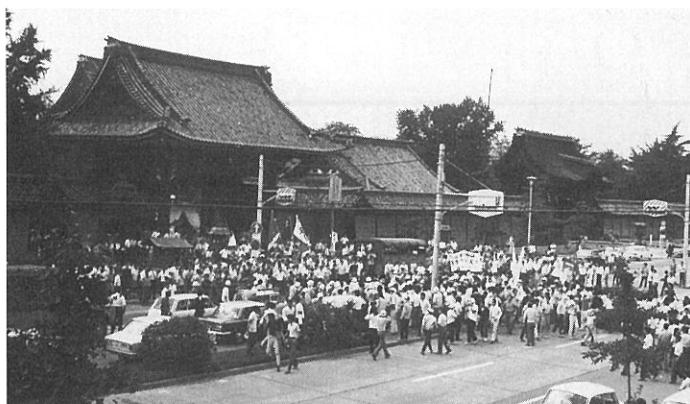
1968(昭和43)年竣工の15号館(右の時計塔のある建物)。法学部創設の年に竣工した15号館には、法学部の学部長室、研究室、合同研究室などが置かれた。特に法学部合同研究室について、木坂順一郎名誉教授は次のように述べている、「各種の雑誌や史料などが開架された合同研究室は、教員の個人研究の場であると同時に、法学会主宰の研究会の会場であり、さらに昼休みや放課後にはそこに居合わせた教員の自由な議論や情報交換の場となつた。そのため教員相互の信頼関係が深まり、合同研究室の存在が法学部の研究と教育および学内行政の遂行に果した役割は、絶大なものがあった。しかし、昭和五十四(一九七九)年五月に竣工した紫英館へ全研究室が移転したときに、合同研究室が廃止されたまま今日に及んでいることは、かえすがえすも残念である」(龍谷大学三百五十年史編集委員会編『龍谷大学三百五十年史・通史編下巻』「第五章 法学部」)。左手には、大宮・深草学舎間を結ぶスクールバスがみえる

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



生活協同組合食品部(1960年代後半)

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1969(昭和44)年9月、2000名を超える龍大生が学長問題などをめぐって深草学舎から西本願寺までデモ行進をし、一部は暴徒化して御影堂への乱入を試みようとした。『朝日新聞』(9月13日付夕刊)は当時の様子を次のように報じている、「一部の学生は旗幟オで障子を破り、石を投げたが、職員は堂のよろい戸をおろして乱入をやつと防いた。このあと、御影堂から縁づたいに、隣の阿弥陀堂へも各セクトの旗を押立ててデモをし、四時半ごろ引揚げた」

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年





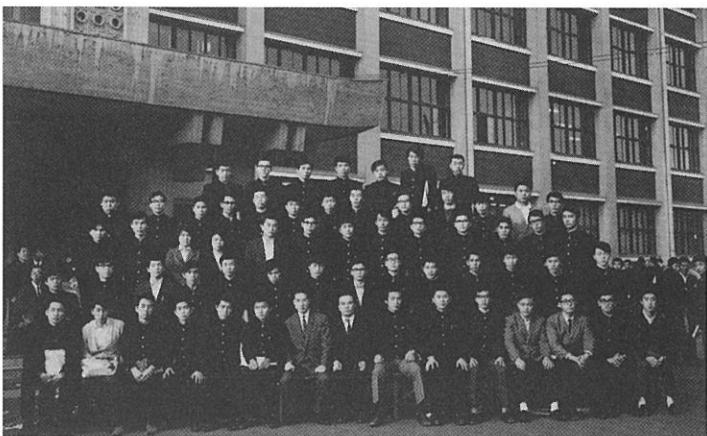
1969(昭和44)年9月、全共闘との大衆団交が13号館大教室(13大)で開催された。「昭和四十四年六月、大学紛争が本学へも波及した。紛争は、いわゆる『七〇年安保闘争』やベトナム戦争反対運動などと連動しながら展開され、本学の機能はまひ状態となつたが、法学部教授会では内部でのはげしい論争にもかかわらず、教員相互間の人間関係の亀裂が深まるような事態はおこらなかつた」(龍谷大学三百五十年史編集委員会編『龍谷大学三百五十年史・通史編下巻』「第5章 法学部」)、と木坂順一郎名誉教授は当時の状況を記している

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1969(昭和44)年、大衆団交のあと封鎖された13号館(のちの1号館)。法学部創設を学内で初めて提案し、その後、法学部設立委員長に就任した北村貞夫経営学部教授は、「法学部設立の翌年(44年)には、龍大でも大学紛争が発生した。思えば、法学部は、最後のチャンスをうまくとらえて設立されたといえる」(龍谷大学法学部編『龍谷大学法学部10年のあゆみ』1977(昭和52)年)と当時を述懐している

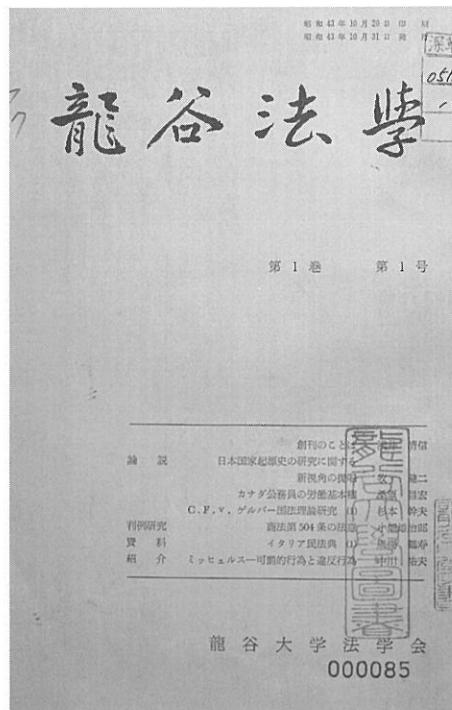
写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



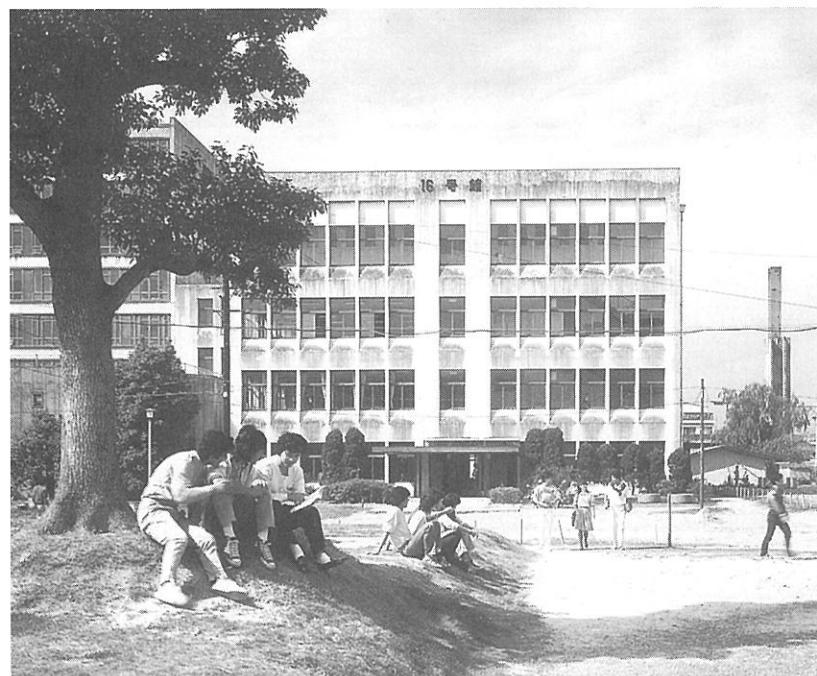
法学部第1期生。1972(昭和47)年の法学部最初の卒業式は、警察のパトロールカーに学費値上げ阻止共闘の学生が火炎瓶を投げ、警察官2名を負傷させるというパトカー事件などの影響もあって中止された。卒業式の代わりに卒業証書授与式が2号館401教室で学部独自に開催され、小畠雄治郎学部長が417名の第1期生にはなむけの言葉を贈った



1970年代の法学部同窓会歓迎祝賀パーティ



1968(昭和43)年に創刊された龍谷大学法学会雑誌『龍谷法学』の創刊号表紙。題字「龍谷法学」は星野元豊学長による。初代法学会長の浅井清信法学部長は、「創刊のことば」のなかで、「機関誌の発刊は形の上では法学会が主体になっているが、実体はその学部の機関誌であり、機関誌の内容はその学部の社会的評価を決定するほど重要な意味をもつ」と記している



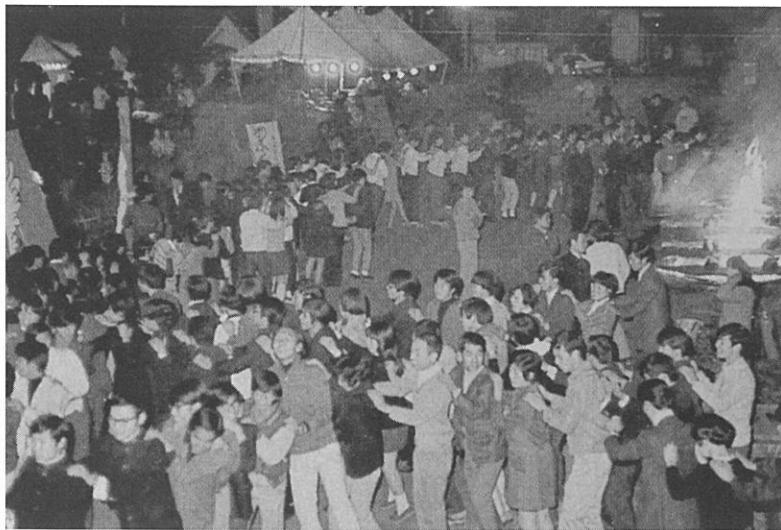
1970(昭和45)年に竣工した16号館

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1970(昭和45)年竣工当時の学友会館

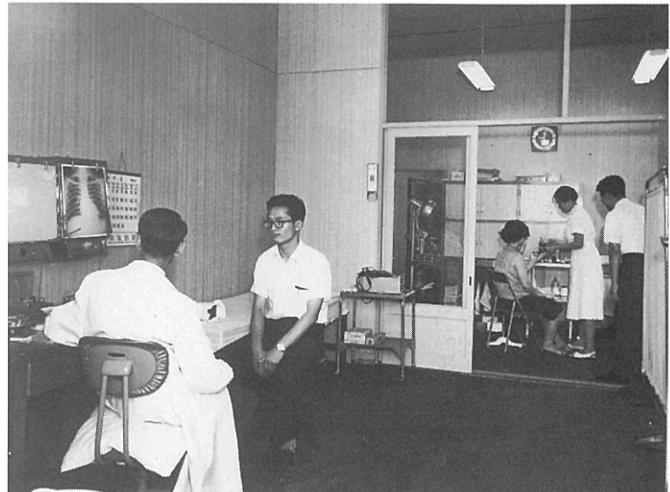
写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1970(昭和45)年龍谷祭の夕べ余興大会。キャンプファイヤーを囲み、ジェンカを踊る学生たち

1970(昭和45)年頃の医务室

写真：龍谷大学編『龍谷大学三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1975(昭和50)年の巡回無料法律相談(徳島市)。巡回無料法律相談はこの3年前に始まった。前列右より谷口知平教授、佐上善和助教授、木坂順一郎法学部長。後列左から、上野淨九法学部事務員、福藤需寛法学部事務長、小畠雄治郎教授、田畠健法学部同窓会会長、腰をかがめている森孝三教授、増田省三法学部同窓会理事、安武敏夫教授

写真：広報誌『龍谷』

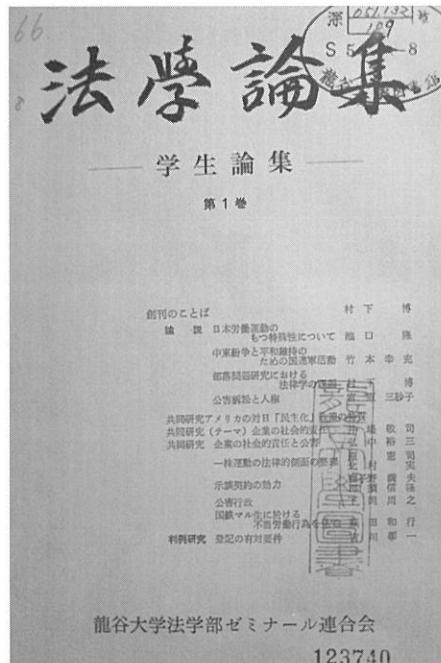


1971(昭和46)年に竣工した体育館

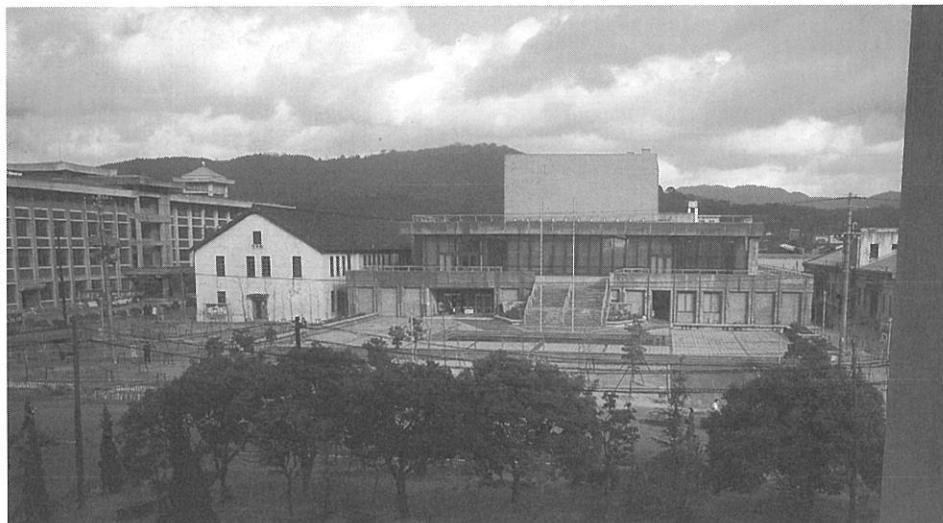
写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』2009(平成21)年



1971(昭和46)年に開催された、国際法学者である田畠茂二郎氏による講演会「近代国際法から現代国際法へ」



1972(昭和47)年に創刊された、龍谷大学法学部ゼミナール連合会の学生論集『法学論集』創刊号表紙。題字「法学論集」は浅井清信初代法学部長による。村下博編集委員長は、「創刊のことば」のなかで、「我々は、この論集が、法学部における研究活動の新たな一頁をきりひらいたことを信じて疑わないし、後輩諸氏の努力により、さらなる発展がかちとられるよう願わざにはおれません。特に、論集発行が不動のものとなり学生相互間の研究活動がより活発化する役割を果すことになるよう切望します」と記している



1973(昭和48)年に竣工した深草図書館。  
手前の緑地は、創立330年の記念の森

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』  
2009(平成21)年



1976(昭和51)年竣工の紫明館

写真：龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』  
2009(平成21)年



和歌山刑務所参観

国際法学会秋季大会受付



1977(昭和52)年度入学試験風景

写真: 龍谷大学編『龍谷大学 三七〇年の歩み』  
2009(平成21)年



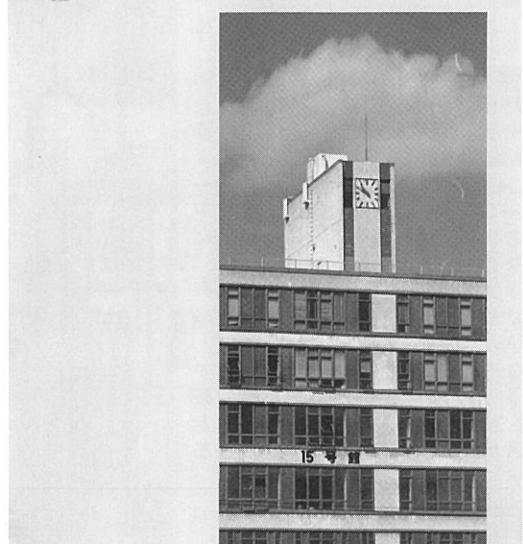
宗教法講座(富山地区)



1977(昭和52)年頃の第55回龍谷祭。時計塔がある建物は15号館。手前には同号館付属の大教室であった略称「15大(じゅうごだい)」が見える



龍谷大学 法学部 10年のあゆみ



法学部創設10周年を記念して出版された『龍谷大学法学部10年のあゆみ』(1977(昭和52)年)の表紙。表紙の写真は、法学部の研究室や合同研究室などが置かれていた15号館